上三川 この日なんの日

ある旗本の死
（1871〈明治4〉年7月12日）

『天野鍈太郎』。この名前を聞いたことがある人は少ないと思います。激動の明治初め1871〈明治4〉年7月12日に、彼は坂上村にて亡くなりました。天野鍈太郎の祖先は、三河国（現在の愛知県）に住み、徳川家康の家臣となって活躍しました。そして江戸時代になり旗本となると、関東地方に所領替えを申し出て、上三川町の坂上、五分一、そして茨城県に合計で550石の領地を持ち、代々受け継がれました。

幕末に天野家に生を受けた鍈太郎は、幕府にて小普請役として働きましたが、やがて江戸幕府の崩壊とともに、職と領地を失った鍈太郎は、生活の糧を失いました。皆さんもご存知の通り、幕府の崩壊によって多くの武士が職を失い、新たに商売を始めたり、職を求めたりしましたが、多くは失敗し、貧しさに拍車をかけました。おそらく鍈太郎もこのような経過をたどり、やがて江戸を離れ、元の自分の領地である坂上の地を、生活の場所としたのでしょう。

坂上の地で鍈太郎は、村人の納屋の一部を改造して家族とともに住み、三王山村（現…南河内町）の小学校の公仕を勤めましたが、その後この地で波乱に満ちた生涯を終えました。彼の葬儀に際しては、坂上村と五分一村の31人が香料を、大山の浄光寺が線香を納めました。そして、ここから薬代と棺代が支払われましたが、不足金が生じたため、旧領民が負担し、鍈太郎の冥福を祈りました。

天野鍈太郎の墓

頼るものが何もなかった鍈太郎は、最後の望みをかけて、旧領地の中でゆかりある坂上の地を選び、移り住んだのでしょう。幕末から明治の荒波の中で彼はまさに翻弄されたのでした。彼の死後2日後に、明治新政府は廃藩置県を発令し、江戸時代以来の制度が大きく変わったことは、彼が生きた時代の激しさを象徴しています。当時の村人により建てられた天野鍈太郎と家族の墓は、坂上の星宮神社の境内でひっそりと、激動の平成の世を見つめています。

広報俳句

両隣阿吽の呼吸雨蛙　浜野正男

学校田笛を合図に田植せり　大八木喜重郎

少年の心のごとく五月晴　柳田石村

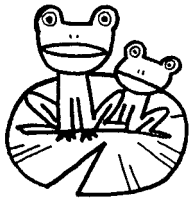
独り住み安けさもあり昼寝かな　伊沢静香

疎（うと）まれしどくだみにして花清し　蓬田四方

次々と心忙はしき麦の秋　濵野マス子

郭公や君の名前をひゃく万回　阿部信子

更衣紺の野良着のすてられず　野沢花枝

応対の衿元涼し女将かな　上野キミエ

ガーベラの真赤な元気もらひけり　石崎節子